別紙様式1

令和5年度　学校評価表　（ 中間・最終 ）

学校名　三原市立第三中学校　　校番（　3　）

a 学校教育目標	仲間とともに輝け三中 ～果敢に挑戦する生徒の育成～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 社会のために役立とうとする志を抱く生徒の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 社会や世界の状況に対応し，よりよい社会を創るために挑戦する生徒が育つ学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10 月 h 達成値	2 月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	ロ	ハ	m コメント
確かな学力	○資質能力ベースの学びが展開され，生きて働く力が育まれる。 ○豊かな表現力と協同性が育まれる。	○学力調査において，単年度で全国平均比較で3ポイント向上させる。 ○批評的思考力や相手意識を持った表現力（パブリックスピーキング）を向上させる。	○学習者基点の能動的で深い学びにつながる校内授業研究の充実 ○第三中学校区学力向上プロジェクトによる小中連携及び，結果にコミットできる授業改善 ○第三中「授業づくり徹底5項目＋パブリックスピーキング」を全ての授業で実施 ○基礎学力を培う学力向上学習（GK），個別最適な学習及び家庭学習の充実とともに，知識を活用する場を設定 ○情報端末機器を活用した個別最適な学びの推進	・学力調査における年間全国比の伸び率 ・授業交流週間の実施 ・教育研究推進に係る校内研修実施 ・第三中学校区学力向上プロジェクト推進委員会の実施	3P 3回 6回 3回										
				生徒アンケート ①「授業がよくわかる」の質問に対する肯定的評価 ②「Chromebookを使った学習はよくわかる」 ③家庭学習の肯定的な意識や意欲の向上	80% 80% 80%										
豊かな心・健やかな体	○積極的な生徒指導の充実～ピア・サポートによる親和性の高い集団づくり～ ◎小中連携の推進により，全職員が生徒指導を含む全ての教育課程で義務教育を見通せるようになり，結果，不登校生徒が減少する。	○全生徒が粘り強く，助け合うことができるようになる。 ○忍耐力（レジリエンス）の向上を図り，問題行動を減少させる。 ○不登校生徒を前年度と比較し，2/3以下とする。	○自主的・自立的な生徒会活動の推進 ・生徒が主体となる「三中チャレンジカップ」の実施 ・「学校生活のきまり」を改善する等，主権者教育の促進 ・縦割り集団によるピア・サポート活動の充実 ・自己肯定感が育まれる肯定的な評価 ○三中スタンダードの徹底及び質の	・生徒アンケートにおいて 「学校が楽しい」 「友達と話し合い，考えを広めていける」 ・「学校生活のきまり」の見直しに係る生徒等を含めた協議	90% 85% 3回										
			○不登校SSR推進校の取組 ・教育相談Coを窓口とし，生徒支援会議の充実 ・多角的，多面的な生徒理解の充実 ・安心，安全な居場所づくり ・個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実 ・不登校傾向を示す生徒の早期発見と迅速かつ適切な対応 ・関係機関との協働的な連携実施	・不登校生徒数の減少 完全不登校 30日以上の不登校数 ・不登校生徒支援会議の開催	0人 30人 各週										
信頼される学校・働き方改革	◎働き方改革が推進され，学校教育力が向上する。	○行事の精選と学校組織力を向上させ教職員が生徒に向き合う時間を向上させる。	○価値ある学校行事の実施と定時退校日の完全実施 ○機能するカリキュラムマネジメントにより効果的な校務運営	・学校行事の規模縮小 ・超過勤務月60時間以内	3項目 70%										
	○通いたい・通わせたいと感じさせる学校を創る。	○普通学級編制を各学年4学級編制とした，様々な縦割りの学校教育を実施する。	○小中連携を通した，小学生及び保護者，小学校教職員に信頼される学校づくり ○環境整備を推進し，美しい学校づくり ○生徒の自治的な活動の活性化 ○行事の充実 ・第3学年生徒をリーダーとした全ての生徒が輝く行事の実施 ○便りやHPを活用した学校教育の発信	・校区内の児童生徒の情報共有 ・主体的な学びに迫る校内研修 ・たより等による広報 ・ホームページの更新	学期 1回 6回 24回 月2回										

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　B：80≦（ほぼ達成）＜100
C：60≦（もう少し）＜80　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。 ロ：自己評価は適正でない。
ハ：分からない。